小學修身書

初等科之部 卷三

教 第一一號
明治二十四年九月一日買入
六内三
北河内小學校
42277

K110.1
235J
4

K110.1
235J

明治十六年六月印行

小學循環書

文部省編輯局

初等科三
41277
41277

國民精神文化研究所圖書之印

小學循環書卷之三

第四章 孝行

父母の遺體なれば。假り初めにも。法に背かじとの心重ね。身を保つべし。常に居所正しく。事に臨みて居るときも。容貌を法にしたがへ。不埒な身持ちすべからず。日新館童子訓

獨りを慎むといふてあり。獨りとい人
さつぬ所あり。ゑそかり我ゑごり知る
こと思ふより。心のおごり外よも顯きて。
輕きいう名を流し。重きい身を損ひ
待る。以と淺まし。我が心よ我ゑとり知
りたるときい。萬人ホ見分けらる。以と
恥づかしこと思ひて。慎み恐るべきとをホ
り。女小學

かの小人の。君子乃德ホ及び至らぬ處
い。何こホれば。他人のかホらぬ知らぬ
して。己獨り知る處乃。一念の動く處ぞ。
よく君子い慎み。小人いえ慎まぬホよ
りて。君子の德よ及ぶぬホり。そき唯人
の見ざる所の。一念の善惡を。君子そよ
く慎みたまふなり。ゑし小人の君子ホ
及ばぬ處ホり。大和中庸

第二章

人と生まれて。學ばざれば。生まれざるに同じ。學びても。道をあらざるべき。學ばざる也同じ。道を知りても。行はざれば。知らざるに同じ。大和俗訓

其故いかんとなれば。人と生まれて學ばざれば。人の道を知らぬして。人と生まれたる甲斐なし。是人と生まれて學ばざれば。生まれざるに同じきなり。學ぶは道を知らんが爲めなり。若し學びやうあしくて。道を知らずんば。學ばざるに同じきなり。又道を知るは。行はんがためなり。學びて道を知りても。行はざれば。知らざるに同じ。同上

學問は。先づ志しを立つるを以て本とす。道を知り行ひて。君子に至らんと思

ふ心常ふ怠りふく。念々やまざる我。志し我立つるこいふ。志し立たざれば。學ぶを成就せず。故ふ古人も。志しある者い。其事終ふ成るこいひ。又志し立つい。學の半ありこいへり。同上

志しを立つるい。學問の本ぁり。志しを立つるりい。勇猛ふるべし。柔弱ふして怠るべからず。怠れば去るしふくして。はかゆうぞ。道を求むるふ切ふる志しい。たとへば飢ゑて食を求め。渇きて湯水を求むるが如くふるべし。僅ふ悠々として怠れば。志しをたる。只此道ふ心を一ちぎふをべし。外物ふ奪いるゑのならず。同上

書を讀まば。我ゞ身ふ受用をるをを。專一ふ志すべし。受用こい。書ふ記せる教

へを。我が身ふ受け用ひて。守り行ひ。用ふ立つるをいふ。もし書を讀み。義理を聞きても。身ふ受け用ひずして。行いざれば。何の益もふきはたぢら事ふり。同上

志しを立つるとい。大ふして高くそべし。ふまして卑々れば。小成ふ安んじて。成就しがたし。天下第一等の人こふらんと。平生志そべし。世俗と同じく賤し

く卑くそべからぢ。斯く志しを立てゝ。日々月々ふ勤め行いゞ。久しくして其功積もりて。必ず人ふはさるべし。同上

學問の道い。極めて廣大高妙ふして。深奥ふり。然れども其近き所い。孝悌忠信の日用常行ふ在り。故ふ以のふる愚ふる者も。此道は學びやすく。知りやそく。行ひやすし。高遠ふして。ひやしく異ふ

る道よを非ず。同上

學ぶ人い。只我ゞ知のくらく。我ゞ德の進まざるをを憂ふべし。我よ學問才知技藝ありとも。我を知ありとし。我ゞ才ふ誇る心あるべからず。人各〻知あり。又長ぞる處あり。人をおろかふし侮るべからば。諫めを姆せぎ。我を是とそべからば。己ゞ不善をそて〻。人の善よ隨ひ。人の善を用ひて。我ゞ身よ行ふべし。我を知ありとそるものい。惡德あり。以ましむべし。同上

讀書學問そるい。本をそとむるなり。藝術を學ぶい。末ふ達そるふり。たとへば草木のもとから立ちて。枝葉ちげるが如し。本を本とし。末を末として。本末のね備いるべし。文武訓

藝ふるれば。人事ふうとし。一生乃間。事かくること多し。わこの紀時勤め知るべし。凡そをじめ不勤むきび。後ふ樂しみ多し。ものき時學びざれば。老いて悔ゆきごも益ふし。同上

第三章

梓弓をる立ちしより。年のくれ行くまで。射るゞ如くなおもゆれば。時日の早く過ぎゆくい。止めあへず。むべもとしと名づけ。又ときと以へるふらんを。れば光陰箭の如く。時節流るゝが如しといへるも。浮けるをふ非ず。樂訓

今の昔なおこのぶ。後の今なおかざるを知りて。かゑてより悔いふこのらんを思ひ。時日を惜しこ。一日も以たぶらふ過ぐをべこのらぶ。くふ暮れて明日も

ありこてたのむべこのらぼ。々ふの日の内を。日々ふ惜しむべし。同上

人生此日の再び得がゝきを知りて。時々其事を勤めて怠らず。日々此生を樂しゝて憂へぞ。よく勤め。よく樂しむ人い。一日を以て一月とし。一年を以て十年とし。十年を以て百年とす。勤めこ樂しゝを知らざる人いたゝひ百歳の長壽を保つこも。常ふ怠りて。一生の間。何の爲し出だせる善事ふし。是勤めざれバふり。大和俗訓

女い常ふ心ぢこのひして。其身をこゝく謹み守るべし。朝い早く起き。夜い遲く以ね。家の内の事ふ心を用ひ。おりぬひうみをむぎ。怠るべこのらぼ。女大學

第四章

人の身い。天地父母の恵みをうけて生まれ。又養はれたる我が身なれば。我が私の物はあらず。天地のたまもの。父母の殘せる身なれば。ていねいしてよく養ひて。毀ひやぶらず。天年を長く保つべし。是天地父母はいの人奉る。孝の本なり。

養生訓

人身を至て貴くおもくして。天下四海

ふもの。へがたき物ふ非ずや。然るふ是を養ふ術を知らず。慾を恣ふして。身を亡ぼし命を失ふて。愚ふる至りふり。身命と私慾との輕重。よく慮りて。日々ふ一日を慎て。私慾の危きを恐るべし。深き淵ふのぞむが如く。薄き氷りをふむが如くふらば。命長くして。終ふ殃なかるべし。豈樂しまざるべけんや。命短

けきゞ。天下四海の富を得ても益ふし。多くのられ山を前ふ法をても用ふし。然れば道に從ひ。身を保ちて長命なるなど。大ふる福ふし。同上

人の氣い。常にのびて強きがよし。身ふ惡事なくして。たぢおそれふそれば。氣常ふ乃ぢて。強くふる。祕事記

養生の術い。勤むべきをよく勤めて。身を動かし。氣をめぐらすを善しこと。勤むべきを怠勤めずして。卧すをを好み。身を息め怠りて。動かさゞるい。甚だ養生に害あり。養生訓

食後にを。必ず數百歩歩行して。氣をめぐらし。食を消すべし。眠り卧をべこのらば。同上

飲食乃養ひい。人生日用專一の補ひふ

て。半日もこのき難し。然きども。飲食い人の大慾ふして。口腹乃好む所ふり。其好めるふはこのせほしいまゝふそれば。節ま過ぎて。諸病を生じ。命を失ふ。同上

人生日々ふ飲食せざるとふし。常ま法つしみて。欲をまゝへざれば。過ぎやそくして。病ひを生ず。古人禍を口より出で。病ひい口より入るといへり。口の出し入き慎むべし。同上

病ひある人。養生の道をば固く慎みて。病ひをば憂へ苦しむ。このらば。憂へ苦しめば。氣ふさがりて。病ひ加そる。病ひおもくても。よく養ひて。久しくれば。思ひしより。病ひいえやそし。同上

保養の道い。みづこのら病ひを慎むのそふらば。又醫をよくえらぶべし。天下ふ

もの人がゝさき。父母の身。我が身を以て。庸醫の手ふゆゞぬるいあやうし。同上

第五章

人の目は。百里の遠き我見まゞも。其背を見ず。明鏡といへども。其うらを照らさゞ。是を以て。人。知ありといへども。我が身のあやまりを知りがゝし。故ゝ君子は學ぶ。專ら我が身をうゝりみ。人の諫めを聞き用ひ。過ちをあらりて改むるをむねとす。大和俗訓

過ちを恥ぢて。偽りかざるべからず。是心を欺き。人を欺くなり。そでふ我が過ちあらんを。そべきやうなし。たやまゝば。直ぐゝいひあらはすべし。隱して偽りかざるべからば。たやはりて又人を欺くい。あやまりを重ぬるなり。以よく

罪悔このくふる。同上

常ふ我ゞ身をかへりみて先づ我ゞ過ちを知るべし。そぞふ過ちを知りふぞ。速かふ改むべし。孔子も。過てバ則ち改むるふ。そぞこのるをふかれこ。のゝまへり。我ゞ身の過ちを知らざるハ。愚なり。過ちを知りて改めざるハ。則ち惡なり。知らずして過つより。猶不其罪ふのし。

同上

凡べて平日おそれはゝしこ。事の過ちなきやうふそべし。萬の災禍をはゝしこ薄氷よりも起ふるふり。言葉ハ信ありて。僞りふく。誠あるを本こそべし。日新館童子訓

第六章

同じく人と生まれて。富貴ふる人なり。

貧賤なる人あり。其高下の品。誠ふ多し。富貴なる人い。怠らぢして。人を惠むを樂しことをべし。樂訓

富貴の人。善を好めば。富貴の力ふよりて。人を救ひ善を行ふを廣し。是誠ふ樂しみ多かるべし。貧賤なる人。もし艱難ふよりてよく身を慎をて。過ち改め。善を勤め行をば。禍ふくして。樂しを多

こるべし。大和俗訓

富貴の人い。古より世ばとふ多々れど。心安くして。憂苦ふく。身閑ふ。暇ありて。常に樂しむ人い。世ふまれふり。是を以て清福の樂しを。富貴ふまさきるを。遥ふ越えたるを知る爲し。樂訓

極めて貧しき人も。我ゞ分の卑きを安んじて。憂ふべからぢ。生まれ付かざる

富貴を羨むべからぬ。同上

貧窮ふして。其憂へたへがたしといへども。能く貧をいとはずして。習ひ熟すれば。苦しとおもはざるゝ因りて苦樂あり。家道訓

患難ありとも。和樂を失ふべからず。もし身い沈む。時世うつろひぬとも。心を自ら寛くもべし。土御門院の御歌ふう

き世ふい。かくれとてこそ生まれけめ。おいこわり知らぬ我が涙の邪。又古歌ふ。うれをい。世をふるゝなどの。習ひぞと。思ひもあへで。何あげくらんとよめるが如し。樂訓

第七章

朝い早くおき。門戸を早く開かせ。家内の塵を拂ひ。門の内外庭中を掃除して。

皆いさぎよくきよべし。家道訓

居室も庭中も常ふ掃除して。いさだよくすべし。斯くの如くすきば。氣を養ひ。心をいさぎよくきよ。暗くあがらいしけきば。心氣の養ひこゝふらば。同上

いかゝ必ず塵ふきこゝても。賤がふせ屋のいぶせ所ハ。むさく見ゆるものあれば。節々水を澆ぎ。塵を拂ひて清むるを。富家よりもおごそかなるべし。婦人養草

衣服ハ儉素よかざり少くよの常ふして。賤しかゝざるがよし。又貧しき人も。はゞこゝを。て潔くあかづき穢きざる様用ふべし。大和俗訓

貧しきあづの女ハ。錦繡綾羅を身ふふるゝことはそい。及びがゝくこも。せめてハ髪を梳りて。人ふむさく思はれはま

をどきせそきぬやうふこ。手ふ適ふ海まふ。身だしふみをるを。古今同意ふるべし。婦人養草

第八章

衣服飲食い。二ツふぐら。我ゞ身をそぐつるりのふて。一日もふくてかないざるをのふれごも。若し義ふたゞひ。禮ふそむきて。是を用ふれば。かへりて我ゞ身を害をるゆゑふ。聖人其法を立て給へり。大和小學

をける物ふ逢ひ。餓ゑたる時ふあらず。味ひすぐきて珍美ふる食ふ逢ひ。其品多く前ふはらふるとも。善きかどのかぎりの外い。堅くはらしをを。其節ふ過ぐすべからず。養生訓

衣服い。常ふ用ひて。以つもよき製法染

め色、ゝり。時の好みよりたがひて。世のあしき俗ふうつるべからず。大和俗訓

女の衣裳うるいしからんを願へるい。人の目を驚かし。まどいためんを求むる。よこしまなる心より起りて。淺ましなる心根あり。身よいたぐ過ぎるものを掛け侍るとも。心を錦ふかし侍らんこそ。女の本意からめ。内訓

孟子は説けるい。道を樂しゝ。義理を味ひて。我が志しをやしなふい。大なる所をやしなふ道理あり。我が口腹のゝを快くせんと願ひ。美食を好む人い。小なる所をやしなひて。大なる所を失ふゆゑふか。やうの人を。心なる人。以のずかり賤しゝおとりゝべしとぞ。大和小學

人々。身ゝ用ふる所の衣服飲食などい。

0843-18

よきを好みて吾が身と心とをよからんことを願はずおるこのかるる至りなあるぞや。同上

小學修身書卷之三

明治十六年五月十一日出板板權所有屆

文部省編輯局藏板

定價金六錢壹厘